

事後評価報告書

R7年1月30日

研究種別	県単	
研究課題名	促成イチゴ栽培における炭疽病発生要因の解明と防除対策の確立	
研究期間	R4年度～R6年度	
	評価項目	評価点
1	研究目標の達成度	3.8
[評価所見] ・山梨県の重要品目のイチゴで発生する炭疽病の発生要因解明と防除対策の確立において、炭疽病の発生原因のひとつと思われる苗床での感染実態を明らかにし、それを防ぐための底面給水システムを構築したことは評価できる。また、県内の生産圃場で発生する炭疽病菌の種を解析し、優占種を明らかにした。さらに、産地における薬剤耐性菌の分布を明らかにし、それらに対する8種類の有効薬剤を選定した。 今後は、本課題で開発した底面給水システムを産地の事情に合わせて構築するガイドラインの作成と、イチゴ幼苗の育苗期間中に生産者でも取り組むことが出来るアルコール浸漬法による炭疽病簡易検定手法とをセットにした健全イチゴ苗生産システムを構築し現場導入を図る必要がある。産地への導入にあたっては、健全苗生産の重要性に理解を促すため、慣行育苗における危険性を十分理解して頂くための科学的根拠も提示する必要がある。残された課題として、有効薬剤を組み合わせ薬剤耐性菌の発生しにくい化学防除体系の構築がある。引き続き、取り組んで頂きたい。 ・計画通り実施されていた。底面給水の有効性を広く生産者に周知し、サポートすることで病害発生程度も軽減することが期待できる。 ・本県の現場における炭疽病発生の要因を解明することで生産者が安定的な生産に寄与する技術となっている。有効薬剤を明確にすることで安定した苗生産が可能となり、生産性が向上する。今後については、耐性菌発生リスクを軽減させる防除体系の検討、底面給水に改修した時のコストや労力面を加味した推進を期待しております。 ・底面給水により炭疽病の発生が抑えられるということが明確にわかる研究成果だった。コストを抑えて簡易的な方法で頭上灌水から底面給水に切り替えができることなので、現場での普及に努めてほしい。 ・山梨県内における発生炭疽菌の種類の特定制それによる有効薬剤の研究はしっかりと成果が出ていて素晴らしい研究でした。 底面給水の技術を現場の農家に周知する方法として、HPを見ない人がおおいので農家を集めて講習会するなどして技術の普及に努めてもらいたい。		

事後評価報告書

R7年1月30日

研究種別	成長戦略課題	
研究課題名	データセンシングを活用したキュウリ養液栽培における増収技術の確立	
研究期間	R4年度～R6年度	
	評価項目	評価点
1	研究目標の達成度	4.0
[評価所見] ・ICTを基盤としたキュウリの安定生産技術の開発では、つるおろし栽培を基本とした仕立て方法や栽培密度などの耕種概要、炭酸ガス施用環境、養液管理技術および適合作形の各試験から得られた成果を組み合わせ、経営評価に堪える栽培体系が構築された。それにより、当初目標としていた50t/10a以上の収量を達成した。この栽培体系は、企業型生産法人等が植物工場としてキュウリ栽培を計画する際のひとつの参考事例になることが想定される。県内キュウリ栽培農家はパイプハウスでの摘芯土耕栽培が主であるが、開発した栽培体系に用いた炭酸ガス施用技術等の個別技術に応用できるものもある。新たに立ち上げる土耕栽培の課題では、新規体系に組み入れた個別技術の適応性を検討する必要がある。 ・計画通り実施されていた。ぜひ今回のデータをキュウリの成長と対応させ、見える化し、得られたデータの共有をお願い致します。 ・炭酸ガスの効果的な施用により生産性向上につながっている。多収栽培におけるデータ化により、現場へ普及しやすい技術マニュアルを作成し技術指導をお願いしたい。また、既存農家の栽培実態を把握しながら、実証展示園による普及活動を期待しております。 ・仕立て方、炭酸ガスの施用、タイマーによる養水分管理により増収することが明確にわかった。現状多い土耕栽培のきゅうり農家に対してもできるところから技術を導入してもらいたい。10年後、20年後の農業を考えると、雇用労働力主体の集約的な施設栽培が増えてくることが予想されるため、この技術の導入は不可欠だと思った。良い経営モデル農家を紹介することで普及に努めてもらいたい。 ・データセンシングの活用での増収技術の成果は吊り下げ式とITCを活用しハウス内の環境を整える慣行栽培よりもかなりの増収になっていてこの技術開発は素晴らしいとおもう。いまは土耕栽培をしている人が多いなかでこの技術をどう土耕におとして技術を確立していくのかそれでどこまでの増収が見込めるのかという今後の気になります。		

事後評価報告書

R 7 年 1 月 3 0 日

研究種別	成長戦略課題	
研究課題名	根深ネギの安定的な周年出荷技術の確立	
研究期間	R 4 年度～R 6 年度	
	評価項目	評価点
1	研究目標の達成度	3.8
[評価所見] ・本課題では、年間を通して需要が見込まれる根深ネギの周年栽培体系を高冷地と平坦地のリレー栽培で確立することができた。この栽培方式は、山梨県の地理的立地条件を活かした作型で極めてユニークである。本体系の開発により県内で生産される根深ネギを称する「甲斐のぎゅぎゅっとねぎ」のブランド力の向上につながるものと期待される。この体系を産地に導入するためには、生産部会の方々と連携を図り、産地内に展示栽培圃場を整備し、具体的な生産モデルを生産者に間近で見て頂くことが重要と思われる。年間を通して展示圃で栽培することにより通常の二倍以上の収益が見込まれるこのリレー栽培体系の高い収益性を実感して頂く等の工夫を考えて頂きたい。なお、全国のネギ産地が抱える課題として、黒腐菌核病などの土壌病害を中心とした連作障害の発生が懸念される。必要に応じて、病害虫関係者の支援も得ることを思慮すべきである。 ・計画通り実施されていた。標高差を生かしたリレー栽培がネギでも可能になることを示した貴重な成果だと思います。 ・冬場の作物が少ない中、周年生産が可能となり地域農業の活性化につながる。普及に際しては、品質面も重要になるので病害虫対策と防除事例を含めた実証、作型毎の肥培管理を検討してもらい、現場への普及を期待しております。。 ・10数種類の品種を比較検討することで、平坦地、高冷地それぞれに適する品種を選定できたことは大きな成果だと思う。現場で導入していく中で、さらに時間をかけて播種期と収穫時期と品質に関して情報を共有し、試行することで、端境期が完全に無くなるような周年出荷のモデルを確立してもらいたい。 ・ネギの周年栽培の技術と品種の選定はできているので農家に技術提供すればすぐにでも通年栽培可能になる素晴らしい研究でした。今回の研究で防除の事が解らなかったのもそういう薬剤の情報も提供してほしいです。		